島々の架け橋「フェリーとしま」

僕は、冬休み鹿児島に帰る時に、フェリーとしまの船長さんに取材をして、操舵室の機器を見せてもらいました。特にすごいなあと思ったのが、船の汽笛を鳴らすボタンです。前までは、自動で汽笛が鳴っているのかなと思っていましたが、船長さんがボタンを押して鳴らしていたということが分かりました。また、トカラ列島の地図を見せてもらったり、船長の帽子をかぶらせてもらったりしました。たくさんのことを知ることができて、とても楽しかったです。

≪小五　≫

タモトユリ調査隊
島の暮らしを支える人々

船員の仕事について知ろう

今回の特集は、十島村に乗船の仕事について取材をしました。上り便の乗船時に操舵室を訪問し、船長のたくさんの機器を見せていただきました。また船長の　さんに、船長の仕事などについてインタビューをしました。

フェリーとしまの船員は全部で十九人で、操舵室で働く甲板部が船長さん含めて九名、エンジン周りなどを担当する機関部が五名、乗客の対応などをする事務部が五名です。

船が出ない日は、船の整備をしたり、天気予報を確認して次の出航の準備をしたりするそうです。

船長さんは、フェリーを出航させるかどうかの判断をするそうです。天気が悪い場合は、船の欠航や条件付き運行をしなければなりません。また、積み荷が安全にきちんと積まれているかを確認したり、出港時にロープを放す指示をしたりします。船を動かすエンジンは2台あり、前進と後進ができます。また、バウスラスターという装置を使って、船の旋回を行います。海は目印が無いので、迷うことは無いそうです。長時間の航海なので仕事の前には睡眠をとり、夜中は交代しながら操縦していますが、迷ったりしないのか聞いてみると、羅針盤やレーダー、GPSなどの装置があるので、迷うことは無いそうです。フェリーの操縦は、舵を使って行います。

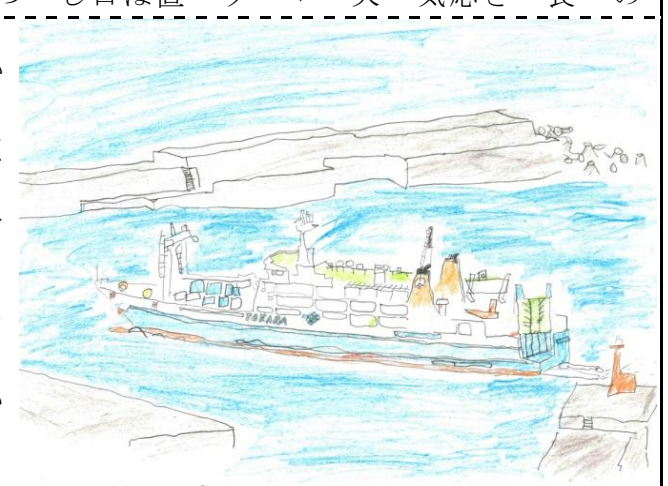
フェリーとしまは2隻になります。揺れが少なくなるので、乗員の仕事は楽になりますが、乗員の皆さんは船酔いをしてしまいます。

さんに聞いてみると、最初はみんな船酔いしやっていました。また、スピードも今よりも出るので、所要時間が短くなるそうです。

乗員の皆さんに分かりやすく説明しながら、フェリーとしまは今年の三月で引退します。島民の生活を支えてきたフェリーとしまの乗員の皆さんに感謝をしながら、フェリーとしまの2代目に、ありがとうと言いたいです。これまで長い間島民のために活躍してくれたフェリーとしまの乗員の皆さん、取材に協力してくださり本当にありがとうございました。

私は以前もブリッジを見学したことがありましたが、やはりボタンの多さに驚きました。すべて覚えるには、一年くらいかかりそうです。取材をしていたら難しい言葉もいろいろ出てきて、船長さんはすごいなと思いました。また、ブリッジは意外に広くて、カメラなども設置されていました。船のブリッジに上る階段はとても急で、面白かったです。ブリッジのいろいろなことを知ることができ、良かったです。ありがとうございました。

≪小五　≫



西之浜港とフェリーとしま　《小3　　》

タモトユリ
1月号
十島村立
口之島小中学校
児童生徒会新聞
1月29日発行

どきどきわくわく　学校体験

二人の入学待ってるよ

十二支は英語で？

ありがとうを伝えよう

教えてください　先生のこと！

今月のミニコーナー